

追 悼

日本微量元素学会の創設者のお一人でもあり、創設期より今日に至るまで多大のご指導を賜りました自治医科大学名誉教授（医学部衛生学講座）である野見山一生先生が2013年（平成25年）4月18日にご逝去されました。享年79歳でした。ここにお知らせ致しますとともに謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。

先生は、1958年（昭和33年）3月東京医科歯科大学医学部医学科を卒業され、1960年（昭和35年）信州大学医学部助手（衛生学）、1962年（昭和37年）東京医科歯科大学医学部助手（衛生学）となり、1964年（昭和39年）「有機溶剤の生体内代謝に関する研究」で医学博士（東京医科歯科大学）の学位を授与されました。その後、1966年（昭和41年）米国シンシナチ大学環境医学研究所にてフルブライト交換研究員として「腎中毒学の研究」の研究に従事され、帰国後1968年（昭和43年）群馬大学医学部助教授（衛生学）に就任されました。

そして、就任直後に群馬県内でカドミウムによる環境汚染が発生したため、先生のライフワークとなる「カドミウムによる腎障害発症機序」の研究が開始されました。1974年（昭和49年）には自治医科大学教授（衛生学）に就任され、「小規模事業場の産業保健」を最重点においた産業医学の教育を始められました。

そして、産業保健の分野で1980年（昭和55年）より労働省・労働衛生コンサルタント試験委員、35条委員会委員、1983年（昭和58年）～1999年（平成11年）日本医師会産業保健委員会委員ならびに委員長、1993年（平成5年）～1997年（平成9年）米国国立産業保健専門家会議（ACGIH）許容濃度委員会委員など、多大の貢献をされました。

先生のご研究は、カドミウムによる健康影響（発症機序、治療、予防）、有機溶剤中毒、重金属中毒（鉛、水銀など）、高齢者労働、女性労働、高感受性（遺伝因子、温度、栄養、夜勤労働など）など広範囲に亘りますが、1993年（平成5年）には「カドミウムによる腎機能異常：発症機序、治療、予防」に関する卓越したご研究でベルツ賞（30周年記念賞）を受賞されました。また、1998年（平成10年）には日本医師会最高優功賞を受賞されておられます。1999年（平成11年）に定年退職し、その後は栃木産業保健センター所長を務められました。

先生は、本学会においては富田寛先生（初代理事長、第1回大会会長）と共に学会創設に当たられた恩人です。1995年（平成7年）～1998年（平成10年）には自らも理事長を務められている国際微量元素医学会（ISTERH）の第1回大会（1986年、Palm Springs）に出席され、Dr. Prasadからの要請「第2回大会は日本で開催」というお土産を持って帰られ、1989年（平成元年）に東京で第2回大会（会長：富田寛先生、事務局長：野見山一生先生）が開催されましたが、それを契機に、当時国内で個別に活動していた4つの学術集会：微量金属代謝研究会、微量元素研究会、輸液微量栄養素研究会、微量栄養素研究会が核となり、1990年（平成2年）4月1日に日本微量元素学会が発足いたしました。先生は1993年（平成5年）～1995年（平成7年）には本学会の第2代理事長として、1993年（平成5年）には第4回大会会長（栃木）として本学会の創設期を支え、今日まで本学会を牽引して来られました。

本学会の研究学術賞である「野見山賞」は微量元素の分野において将来顕著な貢献度が期待され、かつ国際的な研究に携わる研鑽著しい若手研究者を顕彰するために、ベルツ賞受賞賞金を基金として先生により設立されたものです。この賞は先生のご期待を裏切らずに確実に若手研究者の励みになっております。本学会が今日の盛会を維持できるのも先生のお蔭です。先生の創設期より長きに渡る微量元素に関する学問の発展、普及および本学会の発展へのご貢献に対して、2009年（平成21年）7月には本学会からも日本微量元素学会功労賞を贈らせていただきました。

大きな学会の柱を失くし残念ですが、以上のように、先生の日本微量元素学会における長年にわたる功績はまことに顕著であり、ここに、ご生前のご厚情に深く感謝すると共に、先生のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。



故 野見山一生先生

平成25年8月25日

日本微量元素学会
第6代、第7代 理事長 荒川 泰昭

BIOMEDICAL RESEARCH ON TRACE ELEMENTS

2013 Vol.24 No.3

日本微量元素学会

Japan Society
for Biomedical Research
on Trace Elements